



拾遺都圖繪

五冊

叁

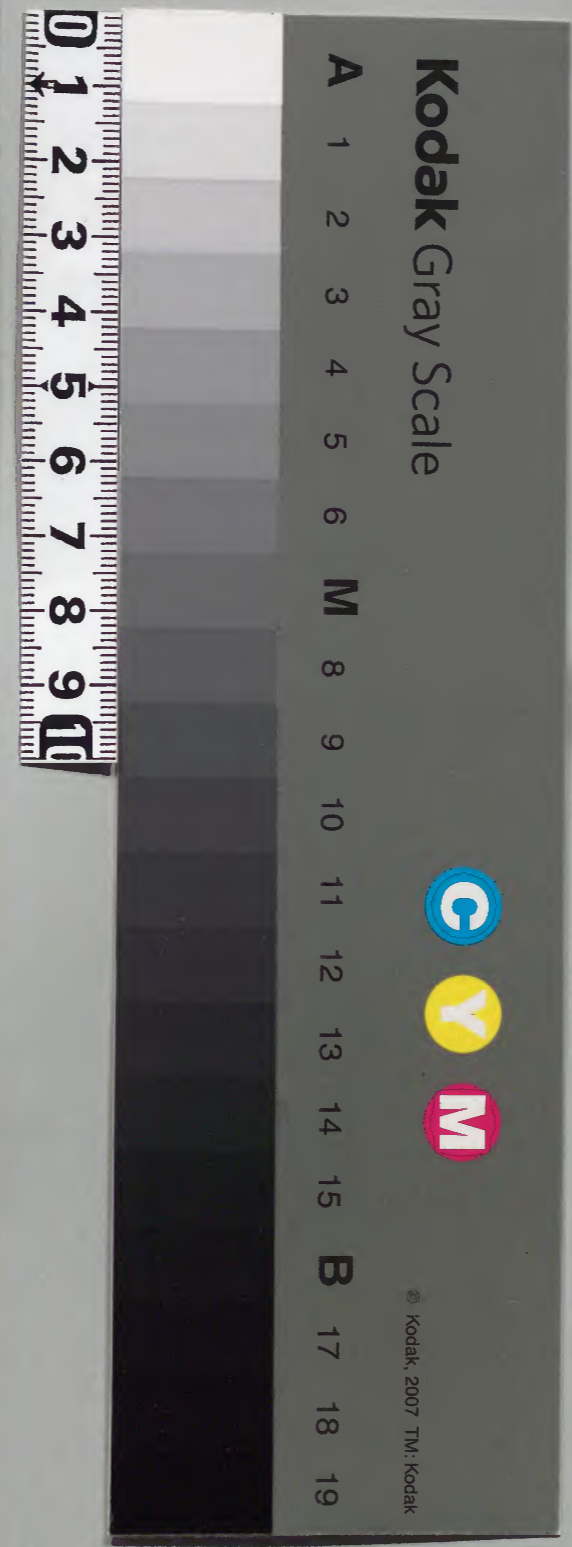
農務省 農務省  
 圖書部 圖書部  
 第七號 第七號  
 冊 冊

大政官文庫	
和	一
書	二
門	三
	七
	八
	號
五冊	架

內閣文庫	
和	一
書	二
類	三
	七
	八
	號
五冊	架

內閣文庫	
番號	和 11378
冊數	5 ( 3 )
函號	172 180

風土



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



遺都名所圖會卷之二目錄

明治十三年購求

伊澤

龍青龍尾

昆沙門堂

鏡山

井秀塚

將軍塚

從河

鶴林

親鸞石鋪

娘ヶ池

聖護院

栗田社舊跡

吉備公像

安祥寺

小巖治水

青蓮院

杖殿辻子

風羅坊舊趾

掘出觀音

秋葉祠

熊野権現

龍府墳

明星水

袖沼原

松丘

花頂山前趾

耕玄菴旧跡

法勝寺舊蹟

満願寺

東天王

御所稲荷

新羅社

善正寺

真如堂稻荷

明王寺

栗田神明宮

比丘尼坂

在原行平亭

蓼倉茶師

願成寺

鳥居大路

お名楓

月輪

迎續寺





芝薬師  
神學園  
春日社 若宮 勅使坐  
吉田泉殿  
法性寺  
青龍寺  
二軀石佛  
砂川 柳ヶ辻  
龍王宮  
千石岩  
十禪師社  
愛宕墓  
中將實方家

極樂寺  
智福院  
神樂園神  
業平朝臣廟  
正栄寺  
沸々  
陽成院陵  
頼政山莊  
樓門籠  
如意城趾  
中尾山  
後愛宕墓  
北白川天満宮

東北院  
西天王  
兼俱祠  
一本松一本松  
長徳院  
地藏堂  
小督局家  
靈鑑寺  
池地藏  
大豊社  
白河  
貞信公亭  
照高院

元真如堂 醍醐水  
本丸祠  
新長谷寺  
身隠森  
武藏寺  
後一條院陵  
三本木  
如意寺 霊木杉 鹿宮 厨加井  
葵谷  
辨慶屋鋪  
白河陵  
公任卿山莊  
心性寺

二尾一

伊澤

丸生山  
金福寺  
圓光寺 御宮  
狸谷不動  
月彌寺  
権中納言敦忠忠莊  
守禪庵  
赤宮  
小野毛人墓  
觀音石  
矢背天満宮  
波那志里杜  
惟喬親王舊蹟

白川石佛  
芭蕉庵 碑銘  
桑山觀音 檜垣塔 坐禪石  
白鳥越  
玄母坂  
林丘寺 修學寺 糸  
大納言手名御回蹟  
寶幢寺  
津蔭山  
神子淵  
紀貫之家  
大原上野  
小野神社

頑仙祠 丈山碑銘  
障松  
一系寺天満宮  
花之谷  
不動堂 地ヶ池 水飲  
道入寺  
山端  
蓮義寺  
甲淵  
住吉石  
津蔭社 同例 糸  
十禪寺  
敏行朝臣家

舞樂寺天王  
比良木杜  
曼珠院  
鷺森 鬚眉天王  
叡山老母谷  
禪義庵  
理昂院  
高野社  
千束碓  
矢瀬川  
炭竈里  
攝取院  
勝子社



西方院  
 寶積橋  
 羅漢橋  
 鉄盤石  
 静原峠

真光寺  
 來迎橋  
 法然上人腰掛石  
 寂光院 補遺

賣山灰翁墓  
 後多願院陵  
 姫祠 大は社  
 火壺雨壺風壺

小野氷室  
 獅子石  
 良暹法師山莊  
 龍義越

山科  
 毘沙門堂御門前

毘沙門堂ハ傳教  
 大師の御基の之  
 初平安城今出川  
 の水あり今塔  
 の壇といふ所  
 前縁ふりてり





毘沙門堂



山門





袖薙

ひりし木竹鼻乃かとり小糸屋の市場

拾玉

わたりしる冠と世はるるそり具木林の袖くまき 慈鎮

宇治拾遺云木林の乃つて小四の宮川原とす所小袖くまきとて遊堀と後より  
何れも所あり又盛衰記を東路や袖くまきとて遊堀と後より  
夫木林とてを立はる後衣袖のほろ乃秀のはよしふ 衣室内府

和舟山曉ふも 表さゆ袖乃ほろのさよふもるる歸るるの涙くまき 心敬

明王寺

山科陵村街道より五町こりり小教乃中小あり 禪宗中興龍淵禪師

本尊十面観音

慈覚大師の允之像四尺服士文殊普賢又服檀了観多反  
安室及け後内小岡浮檢金一寸八分初世教の像安室反

傳云天智帝の沛冠小納ゆゆ小衛 糸賊天祠 佛殿の側小あり天降の像安室反

鏡池

寺内小あり天智帝登天し移小付け池の小玉體とす小安室反

鏡山

明王寺の後山といふ 藻塩草云天智帝の臣下の苗孫今又ありとす  
詞林采葉抄云鏡山之所小あり 山城近は豊前

萬葉集第二従山科沛陵退散之時

長考 やととあるるる人さみののこも沛陵はるる木林の 額田主

滝のふよりへとよ

安祥寺

高野堂と号は由縁 前編小くくあり

伊勢物語如沛高みくまはて安祥寺を後のこもるるふ

人のさけりのなれふとてよとてわくわく 業平

後の集 心のまかりつるくふの今とまの別とてとるるふ

安祥寺小岡居して未とるるのわりくわ 法印観瑜

青龍権現

當寺の鎮守なり真言密之當の無祖少僧都惠運入唐

入唐は足磨士の會昌二年也武宗佛法滅せし時又値く借龍寺

乃鎮守青龍の沛粹取奉て皈朝を 仁明帝の沛宇嘉祥元年

八月小を皇太后追繼乃為小安祥上下兩寺と建立して沛預後始行

松坂

高野山應其上人再興と 粟田口より日岡小ゆる坂沿坂い

て車橋なるい人あり松坂檜園とす又位墓四宮河原とありぬ

きん花とてを依りてけとたうとりの野山科如意山安祥寺

道のりありてまらとあり 若田森 堀結餉乃沛まらとありとふ 長明





伊澤

三五二



山科

明王寺

鏡山

陵村

後池



山科  
安祥寺



色条三

伊  
三  
五  
二  
澤





日山神明宮

粟田口小あり鎮坐の義和歴久遠し詳あり其後社記小曰

帝行

帝行幸ありて日山乃號衣賜宮殿造營あり又天武帝見原

社司

社司官軍小為擔して新田義興と共北園下武乃煥當所の

社製

社製微小乃ひし祈野呂を諸宗光信作し之を再宮に宗之孫

影向石

影向石鳥井の石神本當小あり宇治橋當社乃入口小あり坂添ふ

明智光秀塚

明智光秀塚日所黒谷道の東二町計小あり志秀頭成は所小あり所より

小鍛治宗近水

小鍛治宗近水日所佛智寺墓所門前の西石垣の下小あり

花頂山

花頂山粟田口の西青蓮院の傍にあり華頂寺一峯あり佛龕と多小あり具

比丘尼坂

比丘尼坂粟田口神明山小至る西一町大後の小坂と云古は地比丘尼傳して僧徒

將軍塚

將軍塚粟田花頂山の峯小あり塚上四ヶ所老松四五株あり極成帝の沖村

青蓮院

青蓮院粟田鎮の天台宗にして始祖の傳教大師中興の大僧正行玄

和尚

和尚保延四年十月廿九日座主小任と治山十七年之身二覺快法親王

耕雲草菴

耕雲草菴花頂山の奥又曰趾あり耕雲権大納言右大將補任藤原長親卿

在原行平卿亭

在原行平卿亭今定々る次

堤河

堤河鴨川成り又近川とも近き河系

友奴むとび

友奴むとび白川の東花頂山乃奥小幻質と云く麻子

六帖

六帖月とのあせりて絶せりははく小を死河系と云信實

後殿

後殿又黒谷傳法然上人の弟子心寂婦小修白河枝及辻子といふ所小後を修る

源氏物語

源氏物語中巻云あり川よりなれまわらうた川のりやうのりの

信實

信實

應永十五年

應永十五年

藤原長親卿

藤原長親卿

大職冠

大職冠十三世の嫡孫京極攝正師實公の息男之山門四十八世

法親王

法親王

藤原長親卿

藤原長親卿





大日山  
神明宮  
東岩倉



安養寺  
神明鳥居前



法勝寺舊蹟

下岡崎あり六勝寺の一真つていふへは東大履あり  
 常行堂曼陀堂不動堂山王社八十六間延廊南大門西門北門等巍々  
 行幸し中興の祖ハ威威上人ハ天治元年十二月十八日供養あり  
 西教寺ハ草創と云ふ寺應仁ハ七比て後金堂本尊茶師佛ハ教寺ハ  
 塔壇九重の塔ハ西小町計あり五大堂跡塔壇西二十間計  
 十間餘の芝生ありて中標の本三株あり土人云々本と云々  
 法堂ありて時々田畑より佛舎金具穀品取出し  
 俊寛屋敷日村東の村乃中ハあり法勝寺修僧俊寛僧都の位ハ  
 今城本西教寺の持也と云々中ハ荒神祠あり古乃鎮守なり  
 糸橋のさうり小法勝寺と云々

風雅之と云々糸橋のさうり小法勝寺と云々

家集 君代小法乃と云々乃月け 為家  
 其外六勝寺の内成勝寺乃江ハ東三條の小白川橋の東ハ延勝寺の江ハ法勝  
 寺の江ハ西ハあり園勝寺乃江ハ延勝寺の江ハの小白川あり尊勝寺の江ハ園崎  
 村乃西北車道の一町計あり園勝寺の江ハ二條の南鴨川の東ハあり都て  
 拾芥抄ハあり

鶴

下岡崎南の端西一町計田畑の中ハあり一堆の丘ありて上小樹本あり  
 森ありて黒雲一村之末ハあり東三條の院の時東三條乃  
 の樹ありて具怪鳥飛退治済感と云々





伊平



風羅坊舊蹟

岡崎小ありとを定あり次今ハ所小蝶屋幻阿弥芭蕉公羽  
陀佛とて入俳法師ありハ旧趾取駐るさうん

都経徇の時さうくさふ位一役しめて後其門下の有落人惟然去

小棲て朝夕の勤小公翁の發句とれ後てて楓ハ本魚うらありてさう

ふふ心と清し月雪とありれさう終小宝永ハの年二月九日さめてむあく

ありゆる遺詞さう全銀さう翁の肖像六の形見菅簾 笠杖 行硯 空囊 紙繡 袈裟

ハ惟然乃門才播広る千宗附属今ハ姫後の小増位と宗風羅坊と

遷して堂と營さ小安並一側小塚と築ての簾の塵と絶て神さう

築塚と心と又具側小姫府の城主の發句と石小鑄くさう漆六頃大明名所 圖今ふんさう

たき紙葉や風う登さそ母名と後世姫府 雅樂候

満願寺下岡崎東側小あり岡基ハ日亨上人 岡伽井 堂前乃さう

文子天神當寺乃鎮守之堂前の小あり 初ハ小洋小後世さう

蓼倉薬師満願寺乃小隣る本さハ傳教大師の坐像一尺餘脇末十二神 寺院破壊して中流し漂流しさう

故小蓼倉山法雲寺と号れ

親鸞屋敷

岡崎之應寺前町の南部第の北竹林の地さうとさうハハ并み

堀出観音

乃小月福殿下の別荘乃旧地あり田の字と月輪とハハ地さう

東天王社

所東の端小あり祭神牛頭天王華表の額正一位東天王と

願成寺

東天王の南小あり大念佛ありてハ別佐と表遠寺の勢所さう

小羅く鳥

寺説曰ハ地ハ舊直言院ありてハ荒廢小ハ後教仁乃ハ

秋葉社

就寺の野坊とハハ初ハ一條殿館内小ありハハ

御所稻荷社

即家小川上氏ハハ小居宅ハハ

鳥居大路

平記曰建武二年正月奥列の園司頭家卿二万餘騎を粟田口より

押寄

多居大後小ハハ今青蓮院門跡の家ハハ

黒谷門

あのおのさうあり

近報

遠別秋葉ハ権現ニハ坊取齧清してハ

古鳥居

大路と家とと人居住さう



下園崎  
満願寺



尾崎村

伊澤



風鏡坊旧跡



東天皇



願成寺



下恩寺村



聖護院 上岡崎の 開基の智證大師中頃より三井の清門主法親王住職

終ひ修験道と兼て心伏と官領し終人 凡ふ伏小天台真言の二流あり天台の當門

小属にまじり當山といひ終野之心の檢校天治年中僧正行きた其初と云

能野權現社 聖護院社あり鳥居乃類 當宮へ 後白河上皇の勅願にて

終野新宮 勸請し終初に封境廣くまを宮殿ふ 金少と鑲免樓門

廻廊後舎 經堂巍々たり 取初建之乃時終野より土砂を運りて宮殿

今ある所 新創終野新宮と稱す 樹木を種々植へ終野より土砂を運りて宮殿

惣トては社の方境廣くまを宮殿ふ 老樹を種々植へて本後芝羽鬱

新羅社 聖護院社あり鳥居乃類 當宮へ 後白河上皇の勅願にて

飯成社 聖護院社あり鳥居乃類 當宮へ 後白河上皇の勅願にて

栗田社 舊地あり聖護院社あり鳥居乃類 當宮へ 後白河上皇の勅願にて

續岐院の神靈を神子明王乃縛小終て顯し崇徳天皇の追號と授けん

栗田宮へ 崇徳院 宇治悪左府頼長 六條判官為義板元曆元

年四月十五日勸請し終久四年八月十五日己酉系と始自今己後今

月中酉を用がれり室有と下されりぬ内菴寮の清幣宣命と之ら

上卿民部卿經房卿使内藏助惟宗久義應永七年九月九日當社の神供

御精進也 大中臣日記云 建武元年七月五日栗田社燒拂の所小畠中重連

身命と并く清神體壘清宮板取出奉り文和二年二月朔日清再建同六月

廿日卜部兼敦承て遷宮と神主隆昌重連兩人更く五年宛され板補と

伊澤

盛衰記云

元曆元年四月十八日子時崇徳院の遷宮あり春日 丸太の末の河系れ東あり

け所ハ大炊殿の跡先年の穢場也 中畧 又故宇治大長の 鹿田の 鹿田の 鹿田の

玉葉 向 一板の焚きたるをそのりさはく生舟人 後鳥羽院

十訓抄 宗徳院は樂百首あり 子日 但馬守 家長

家集 子の日せり 志まねね松と乃神也昔よりる初く終 老孝



松塚

聖護院本林乃西南二町計あり是則宇治悪た府親長の社地あり

善正寺

聖護院の東小二町あり法華宗あり本因寺小属に同基八日鏡

釋迦堂

上壇乃地本堂乃西小あり教宗釈迦佛を金銅の坐像九寸

月輪

聖護院の西田の字小あり聖護院の乾月輪川の赤小あり坐像

右大臣吉備公像

正帝養老丁己年吉備公唐土小像を黒袍衣著して坐像又

明星水

氏者出西學於中國作爲和訓以教國人

稻荷社

大明神と書に寺説曰むり當之の位祇之の年稻荷大明神

伊澤

夜尊信して常小清をある夜の夢小神明現き多し鈴聲山の清浄無垢乃靈  
地と速小勸請を乞ふ告めりて覺ぬ風小起堂前て見れり  
行手小寶珠衣捧て曰つまは稲荷乃社使之は宝珠衣小  
一の社勸を授け忽ち白狐と化せぬ社勸者異なりて  
さとのの奉小指し別當増圓小は社勸者異なりて  
し其体小合とんとまは歡喜一則社勸者異なりて  
山乃境内小社ありと云ふ

迎稱寺

真如堂の乾小あり時宗初小糸振一條小あり故小一條道場といふ

本尊不空罽索觀音

惠心の化立像又尺其外阿弥陀佛

芝薬師

迎稱寺乃西小隣る靈芝山小興寺と号に大宮又此小あり今芝薬師

本尊薬師佛

運慶の化坐像三尺五寸十二神將小化之像三尺計

圓羽像

當寺小あり寺記曰將軍尊氏公乃夜の夢小女来り告て云今汝

乃安

乃安と書に家高師直り状あり又後多羽院寺附の佛舎





伊澤



聖護院森  
熊野推現社



極樂寺

芝茶師の西小隣り時宗少して藤澤小属は初天台宗少して惠

本尊是沙門天

心僧都の嗣一修成橋のをり後世はく小つと

東北院

極樂寺の西小隣り時宗少して藤澤小属は初天台宗少して惠

本尊辨財天

右大黒天

園白道長公像

衣冠東帯坐像一尺計。道長公、園白系家公の男正一位横政

和泉式部塔

寺内小 雲水井 堂ありの西 軒端梅 日所小

折みへの東北院といふ上東門院の所願之所父清堂園白道長公は棟より

法成寺の傍つらとせりて後世継つらと拾芥抄は一條の南系極東より

上東門院の所法成寺の内東小の隅よりと杖束略記は長元二年八月廿一日

上東門院東小院と供養ありとて書つて後慶の導師の僧正慶命よりと

釋書小のせりて又永承五年十月十二日小へ 天台宗東小院小の幸ある由百練

抄小ありとせりていへいへ伽藍魏々壯麗小して天台宗北澤刹之具白地ハ

今の京極通法和院清門の小遣蓮院廬山寺等の地と委是撰の平安舊

山本村

圖考小載

和泉式部塔を軒端梅に今所々小あり皆東北といひ註曲小

元真如堂

真如堂の山下壇乃地之直如堂の本堂初 廬山常行堂在廿時一條院

の殿舎乃境地繪本堂出々をけ所ハ其附の舊地あり

本尊阿弥陀佛

白河院宸影 同女院御影 共小画

蓮華童子附属瑠璃壇

真如堂草創の時童子を人蓮華織の錦の囊小土

佛觀無量壽經と説く時無數乃衆生法と聽て得道一且嬾婆娑羅王韋提希

夫人往生に之阿彌世正と善道小歸入り其説法の座下の土之早七寶の壇有衆

ては靈土と収り其上小如來を坐しをなれと説く又曰我名極蓮華童子といふは

永く坐し佛圖のかかり佛法を擁護とて如來在坐の所ハ必醍醐味乃清泉

東三條院

醍醐水 堂の小下壇の

神樂岡

吉田山とて由縁

新六

君代と祈るのりの神系を祀る事奉れりるそり人 衣笠内府

後撰吟詠系 藤原のすまるとるのこころを祀る事奉れりるそり人 道真



垣根の茶  
 りえあふ  
 ようや  
 ふく  
 けりて  
 やし  
 ここの  
 の  
 店  
 念  
 へ



山本





真如堂門前  
 稻荷社  
 迎稱寺  
 芝茶師  
 極樂寺  
 東北院

二六十五



智福院 神樂岡の南あり 本尊虚空藏菩薩 秘佛厨子三重して外は注連と張る  
 西天王社 本社の下壇あり 祭神 牛頭天王 岡崎天王と一雙の社  
 本瓜社 西天王の末あり 例祭八月廿四日

春日社 所の中壇あり 祭神 南都春日明神と曰く 神傳を大  
 平安城より行行遠くあり 皇妃の社と云ふ 中細言山陰

若宮 祭神 乃の小祠之足當所の地主神 延喜式神名帳に曰く 霹  
 神樂園 祭神 乃の小祠之足當所の地主神 延喜式神名帳に曰く 霹

ト部兼俱靈社 祭神 乃の小祠之足當所の地主神 延喜式神名帳に曰く 霹

新長谷寺 春日社の下壇の地あり 本尊 千手観音 中細言山陰郷乃殿宅  
 應あり 乃の小祠之足當所の地主神 延喜式神名帳に曰く 霹

吉田泉殿 吉田の西北に泉あり 字の田地あり 水石の跡今小孩まを明

本真如堂

涼しき

野ふ  
 念佛の

去来









業平朝臣廟

吉田の奥小ありとて今詳あり  
曉筆記云の中將業平朝臣之慶四年五月九日病と發し  
日廿八日子の葬生年五十六歳小面山にて歿せり人曰後去き洞  
又少少清原老臣小作て  
中將の靈と神と崇めり人曰

二本松

吉田村の外西小一町計小あり  
一本松 二本松乃有治の傍小あり  
初は所小地藏堂ありしと

法性寺

鴨川の東岸今出川橋の南小あり法華宗同基ハ阿闍梨朗慶之  
初ハ相別鎌倉小あり本園寺と共ニ終呼小川不其とれを  
後下生小あり其後京極今出川小川に之を祿年中突焼せし地

正栄寺

法性寺の小隣法華宗  
常林寺 正栄寺の小隣  
今出川橋東爪小地藏堂  
の二軀取安至唐佛

長徳院

常林寺の小隣法華宗  
地藏堂 今出川橋東爪小地藏堂  
の二軀取安至唐佛

武藏寺

武藏寺 武藏寺の東一帯寺道の花小あり法華宗當寺ハ江州深井の  
初ハ内藏正圓泰とて之のありて後言小より生害小乃入其妻尼と  
あり空衣捨して寺とふし亡女の追福と修則其乃其夫故小寺号と改  
泰と号に其後秀吉公薨去ある時法号と圓泰院と号し故小寺号と改  
てのの名字取捨んて武藏寺と号ととと俗説小武藏坊在慶應と  
出ては所小僧とといハ大なる謬也

青龍寺

田中村小あり天台宗本教寺小属に本寺ハ地藏堂小野皇の化胎  
初ハ地藏といハ中興ハ山門惠空和尚當時ハ女供位蔵と

地藏堂

所西門の外南向小あり本寺延命地藏堂春日の化之傍又尺計  
脇土左不動右毘沙門共上と同化初ハ京師水落西光寺小あり

後二條院陵

山城國愛宕郡小白川村畑中ハあり字取福塚といハ  
雍州府志曰勸修家の一代五條大納言國綱卿の墳ハ在國綱卿ハ元富  
有乃人ハ五條内裏取遣り又治承四年平相國清盛公の勸免りよハ  
葬ハ取塚福原小遷りハ其時國綱小里内裏と造りしハ心りハ  
雙ハ取塚福原小遷りハ其時國綱小里内裏と造りしハ心りハ  
物ハ取塚福原小遷りハ其時國綱小里内裏と造りしハ心りハ

二軀石佛

陵の東白河道の左傍小あり二軀共坐像四尺計甚古化  
希代の大佛之合運圖云寶徳三年二月小白川の佛像動  
とて聲取發して白河へ移せし時聚樂城を移ししハ此像

陽成院陵

東の地一帯奉り奉る云帝陵記陵所系まきと云  
白川の流まき小ありしと平家頼長門本小信西の女天下の美

小督局家

人ハ容色はやう小美と世ハ勝まき白河の村小信西の女天下の美

佛々

百餘遍西門の前島の字之初ハ地藏堂といハ  
佛々 佛々といハ故土人字ととと









伊羅



砂川  
 柳ヶ辻



千菜寺  
青龍寺  
武藏寺



百方池乃

千菜寺  
冬の日影乃



標差

柳之辻



源之位頼政山莊 聖谷の東中山小田沼あり東鑑云治承四年五月廿四日

靈鑑寺 鹿谷小あり本尊不動明王 智證大師の他 用基の靈鑑院尼公あり

後水尾院皇女妙法院 然法親王母公とせらる代々比色所清住職あり

如意寺 靈鑑寺の南ありて谷坂開て隣はいみじく如意嶽樓門龍の傍小

靈木校 本堂の後小あり希代鹿宮 校の傍 岡伽井 日所小あり靈泉ありて

龍王宮 如意寺旧地あり東小あり如意寺の伽藍の跡は社の異二町小あり是より

樓門龍 遊谷の上方ありいみじく如意寺の樓門

池地藏 日所の奥あり山崎小石傍乃地藏を築き初め如意寺あり

葵谷 龍王宮の城迫の傍あり

千石岩 葵谷の左三町計小あり岩の形高くして傍に千石と稱上りて

如意城 日蹟樓の上五町計小あり足利義晴公の造之亡滅の後天文十九年

大豊明神社 鹿谷村巽の方あり祭神牛頭天王と土人生土神と

辨慶屋敷 日村の境に無寺の小四町計小

十禅師社 鹿谷の銀閣寺の門前小あり祭神山王十禅師又日所八所

中尾山 銀閣寺の同五町計小あり足利義政公は地小居し人対は峯

白河 水原山中村ありありて

名寄 松子の花ありて白川の畔ありて

白河 延喜諸陵式云右皇右藤原氏山城國愛宕郡上栗田郷小あり

愛宕墓 諸陵式云贈正一位源氏清和右上天皇外祖母山城國愛宕郡小あり

後愛宕墓 二代實録云貞觀十一年九月二日左政大臣從一位藤原朝臣良房薨

古今の源ありてそなたの白河のありてそなたの源ありてそなたの源あり

素性法師

忠仁

忠仁

忠仁

忠仁

忠仁

忠仁

忠仁

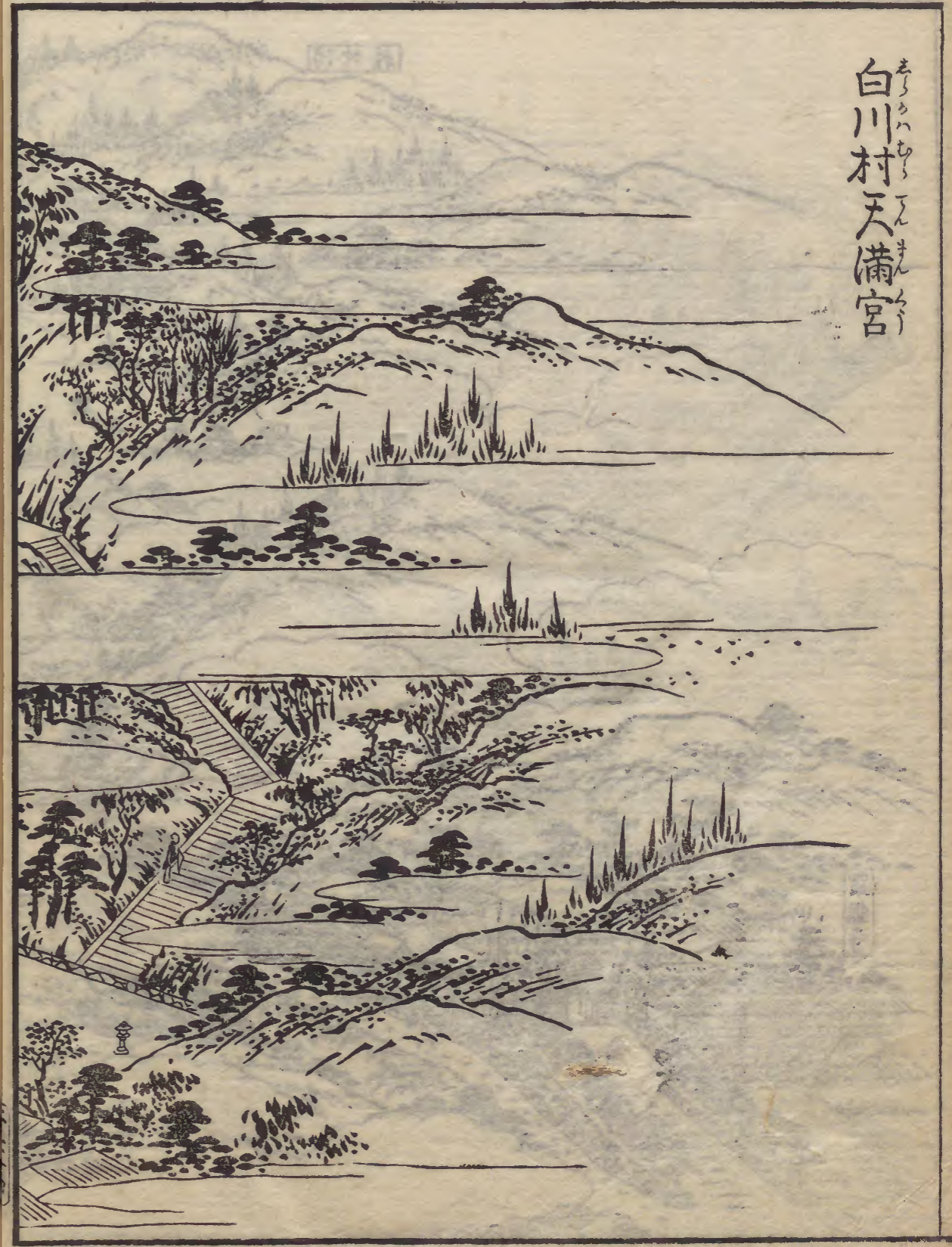




鹿ヶ谷  
靈鑑寺  
如意寺



白川村天満宮



照高院





白川  
 心性禪寺  
 衆願寺  
 釋迦堂



白川村



貞信公亭 いしつへい 白河ふあり白河殿と云

貞信公 今詳あり  
おぼれたるいしつへいしつへい白河の家おぼるうらな

後撰 あとの 志の流れてはぬ川をたそふ人よせし物をも 中務

延長八年とこの風ふくつて承平又年ふ京にのりて  
たがれ白河ふあり中務のたすてふふ新はくし  
まるとやあはれはよあり

家集 いえ 百草の花れをまてはしつ 春もらぬ白川の水 貫之

公任卿山莊

小白河れらるふ花のありろくされてはくはるふ  
人こまうとさうりなれ

拾遺 しやくい 表をそ人もゆつるふ里の花をそ名のありし成りれ 公任

敦道のこれとゆり大納言公任の家ふはくりて  
その日たこのつらつら使ふつけしやゆり

新吟 しんぎん 花は人のそれあつるにあらなくも 春省の花れをそる 中務

中將實方家

春中こりふく人こかくくありはくはる中務実方家  
おぼるうりて十月末白河の家おぼるふおぼる一葉はくさる

新吟 しんぎん 今とらんをそるをそるし 心室のお茶も人あはれせ 前大納言 公任

北白川天満宮

白河村南の方ふあり土人生土神と云 御祭九月十二日神樂二基を居  
の額道是法親王御筆之撰社山王春日院

照高院

旧所ふあり聖護院退院所之同基興意法親王寺門の長使聖護院の後降珊  
寺と号に殿舎ハ伏見城松の丸と引後道鬼法親王修補ふりゆり

昔集 むかし わさく鹿ふ白の面影のまらくも 山花乃をそる 鳥 廣

寛長四年九月八日二井寺講堂中再興して得る  
まらまら一に照高院宮へまらりてかくをすゆり

名寄 なよ たふきる二井の流とあてあてふはくはるはのありふ 玄吉

寛文元年正月廿五日行幸白河照高院ふありて  
昔為行宮

心性禅寺 しんせうぜんじ 日向所の方ふあり 禅宗本なる阿弥陀佛の坐像二尺 照高院 道晃

三例龍和尚 さんれいりゆうわう 之は所長系して 洛陽の萬戸眼 下小遮る

瓜生山 うりやま 心性寺の良ふあり 元將軍地蔵の地と則古城の形存と幸ハおぼふ

新勅撰 しんしやくせん ひんとそらちひてを瓜生山碑立あし 藤も啼き 謙徳公

名寄 名ふさくもつらつら瓜生坂旁のまらくも人ともまら 惠慶法師



小白河の石佛ハ希代の  
 大像にていつもの代乃  
 他とて入事とてあつた  
 子孔子のこはり西  
 方小聖人あり乱れ  
 言どとわさね  
 とやうなること



小  
 江

極樂 地獄  
 ちねぬい  
 せれぬ  
 ものと  
 あふ  
 一休

福塚









舞樂寺村  
 金福寺  
 芭蕉庵  
 丈山墳











一乘寺村  
圓光寺



瑞巖山圓光寺

一教寺村天王の東二町計あり禪宗南禪寺に属し奉獻

東照宮

當寺東の山上に鎮坐し移山中興之要和尚清敏請し奉所之

折當寺の野別足利の學校と慶長六年

台命と當寺の伏見の移月小極

其後相國寺の内ふり又寛文年中は地小移を中興の祖の之要和尚之法嗣衣

耳峰住禪師不受足利學校乃第九世之印板植字十萬字朝鮮の書籍

二百部 台命ふりて清寄附あり又之要和尚 命はて都鄙乃國字

張掌し故洛陽の學校と稱し當寺の清建之 清代の最初と

とい傳ふ 今の世に力者大物と牽動と多ふ之要和尚といふ寺より記を

慶長乱後記林道春云

足利學校の參議篁の建之我國序りて書生受業乃旧館なり社

領二百五十石あり近代九本老人次ふ宗銀講誦は大同の時儒法漸く

廢して相國寺の圓光寺住長老と云此社と持たり云

栗山觀音堂

圓光寺の良之町よりあり林丘寺清所の清抱所と奉る馬

檜垣塔

觀音堂のありふりあり三層あり又尺 坐禪石 具儀あり由縁

藤江



栗山觀音





乃 坂 母 寺



曼珠院  
天満宮



狸谷石不動

一茶村天王より長十町餘あり行路嶮岨之高廿丈餘サニ丈計の  
石窟あり中石像の不動尊依安長又尺計本食上人正禪の  
鑄を鑿驗いちまはくしてつゝの小孩人多し此地四隣峭壁やて谷深し  
樹林蒼蒼蒼として  
白日旅藏に

白鳥越

同所の東山あり上古の性遠道ありて是より  
殿山東坂本穴を村へある名古路嶮といふ

花之谷

同所の山ありは所小橋多し故ふ名とて殿山の衆徒一夏中勤切  
の橋板より伐出しは色の人公假して公門へ送るなり

曼珠院

同所東山あり浄宗昔  
天台やて山門の座主と  
浄宗派慈覚大師より相承して天慶

年中小山ふ於て閑を移し浄門跡は足善法親王と初は中古なる後

禁裏乃側小遷を明暦二年良尚親王今の地に移し移し  
竹内浄門と

天満宮

當院後山あり系神菅公後陽乃菅大は浄門生兼帶所之  
當山終系ありて奉觀の地と

むくは所小月林寺といふ殿の三千坊の一寺あり日本紀略云康保四年二  
月廿八日大長實頼公月林寺ゆく花と移しあり

拾遺抄云古今の他者幽仙律師延曆寺別當小補と拜堂の爲小登心乃  
日坂本月林寺ふ於て頓減と

清慎公月林寺ふまくりりりふとてりてすてとて  
よとゆ

拾遺 昔我あり一柱のういもあし月の林れれりり移と  
文章生  
荻原俊生

鷺本林

鬚眉天皇

拾玉

ひえのふい

冬といふ

さひーくれ

雪の色あは

たれ

杜より

意法















此の山は、  
僧侶の  
汗と揮つて  
成るといふ  
書しる人



道入寺

修学寺村乃南あり法華宗

禅華庵

修学寺の東あり禅宗一庵と安んじ長尺寸計共小厨子

神祇拜と二神禪師小告て曰は佛道修行の心と云ふ六十乃壽賀イ大  
黒天依画と云へ諸人小あり即老母成るに親族を聚免  
儀式を調へ大黒天と云ふ画に法を小興一萬六千四百餘  
靈験ありて何困ともあり人々み清しとの儀と撥り金銀を投  
駭し速小土藏にいと遷佛乃供養ありてさく又安んじ禪師の壽

守禅庵

赤山社二町計山の腋あり禪宗開基の徹翁義亨和尚之大燈

大納言年名郷旧蹟

今赤山明神の

著門集云お朝一の貞觀十九年三月十八日大納言年名郷小野乃云  
之始て尚齒會と云ふ事あり  
山端 修学寺村の西あり若狭街道より八瀬大原の喉口之毎小足あり  
小の方里乃残女馬と云ふ黒本真は本さとのりふ戴さあふの獅子楯  
躑躅忍州旅携て来ふ出町小治と云ふありた又いろくの代りて  
ありれ帰はされと云ふ事あり

善父入や判合息一多大系ましく 其角

理即院

日所西側あり本寺地蔵堂あり僧部の住坐像四尺計一説小曰

赤宮

修学寺村の北高野川原村あり祭神稻荷明神享保年中小干

寶幢寺

高野村小あり永年中の草創あり

本尊阿弥陀佛

立像長二尺計ありて相好貴奇之傳云初に別志  
田善光の持尊之當寺の熏空上人は本尊を信作して遷小寺と

歸命山蓮華寺

寶幢寺の小あり天台宗山門小属に初ハ澤土宗

本尊釋迦佛

坐像八九寸計寛文中賀別乃老臣今枝民部近義

今枝宗二居士石碑

佛殿の小あり銘文本下順庵撰にさふ畧に

漱玉

井屋の額云。峨山稿云相傳原有台麓蓮華寺惠心僧都所供養後

高野社

高野村東の系神早良親王又高野の神靈と云ふ土人生土社

道定らんと神靈を祀りて田畑川脈小限ら次第小踏る所依成はなりと云ふ  
送人財の神靈を祀りて上ら成るなり神靈乃勢なりて人家の方へ  
むれりしに神靈を祀りて上ら成るなり神靈乃勢なりて人家の方へ  
を忽其所成動を祀りて去るなり村民小汗握りて神威と云ふ  
無言のうちに神靈を祀りて去るなり村民小汗握りて神威と云ふ  
出雲高野神社と云ふなり。神祇拾遺云八所清靈乃内崇道天皇  
山城國高野清靈云云





北山

八束石

小舟

舟



山端

茶屋

村

川

光武帝の  
後漢の  
社  
櫻  
少  
出  
物  
生  
お





高野村  
寶幢寺

高野末社九神

諸社根元記云加茂大明神山王貴布祿いこくの大明神  
十二所権現山神三輪明神ウレノコセニ護擁神已上  
村西乃大明神の神名帳云伊多志神社愛宕郡小ありて疑くは社名今も  
いとく大明神といふ。ウレノコセニ縁起云

小野毛人墓

小野氏系圖云毛人の敏達天皇の曾孫妹子の毛野男之墓ハ高野  
川の北崇道天皇乃社山上町計小あり人具所と踏とれた  
則響なるの地あり土人されね怪む年奉奮一慶長十八年癸丑  
十二月土人高村政重といふものされね堀る石棺と得たり内小金牌  
一枚あり具表裏  
乃文たのぬ

飛鳥浄御原宮治天下天皇 御朝任太政官兼刑部大卿位大錦上

小野毛人朝臣之墓

營造歳次丁丑年十二月上旬即葬

は牌

公命ふりく人小安直とといふと崇あふふりく村氏忍怖して  
又え乃石棺へ収むといふ今ハ金牌の模高野村寶幢寺記有る事小  
安直と云ふ

御陰山

高野村の東小あり。万水一露えみあまふりる野の方小あり清  
教とて日所といふ

現存 六帖 そののの清教乃これの茶室なることわはるる事と云  
家集 ありとてこの神のまはる者のたをとりて  
中原師光 爲家



高野蓮華寺  
高野社



八坂



高野



甲淵

八瀬川高野より八瀬小至は

千束碓

甲淵の北半町より小あり右の方矢背川小流んで岸高くと

山ゆて道幅八尺計乃極落し平治物語云比羅山小信賴義朝がけて大系に落るとさうたれを西塔の法師が... 義朝はよりなげ及び都めとてくもさうたれを西塔の中... 山徒乃をふりうひふく死とてさうたれを西塔の中... 千束碓の花の原より二回計あり自然石の面佛像と鑄土人觀音石と... 觀音石 千束碓の花の原より二回計あり自然石の面佛像と鑄土人觀音石と... 神子淵 觀音石の小又町 住吉石 石といふ

矢背川

矢背の由縁 前編ふにゆ

源大原の山二里計して城近の場より城峠をい

溪よりえりてさうたれは入系を経て矢背小至高野の里と過り乃... ちうとぶれ下鴨河合社の南で鴨川小落合は川の流に至ってほり... して繚纏に桂子と山小觸岸小流して早原と登岸され魚せん... 茅薄と布て坐し釣と意あり小細なうらてさの淵のこの原にあり

あつたるも多かりた高野川小日毎小 禁裏調進乃鮎取献は

矢背天神宮

日村の東の 糸神菅靈生土神と次例糸の四月二日神樂二基

一基ハ王寺の神樂之諺曰菅家清若年の所敷山法性坊阿闍梨尊意乃室入... 室小未ア命イハ人奉あり阿闍梨の若人神也小... 松榴取ッて妻戸小... 紀貫之家ハ小... 古今

古今 杖の心... 貫之





甲

御蔭社御祭

家集  
 葵のよきとて  
 くりぬれ神の  
 そうけふ  
 むののびと  
 今も  
 のり  
 為家







矢瀬天満宮



石巻

大系



炭竈里

大原郷小ありむり小神あり

新編

炭竈里乃煙の里乃名ふとてよとふと考れたのり下 土井内院 炭とやれしより名と

波那志里社

大原乃野南の郷 源太夫社 北江文の社あり

上野

大原郷の西戸村あり

万代

十禅寺

戸村のひく計山脈あり巡り源林ありて中州堂あり

龍女山攝取院

大長原村あり一名本尊阿弥陀佛 聖徳太子の仇

閑基澤住法師

製法師俗人なり一制を欲と好の妹小密通

住生素懐衣遊ふる己上縁起の大意

惟喬親王舊跡

上野村南の方田の宮小所内とあり傳之惟喬親王

其地小古た石塔あり土人云

古今 忘まてい愛うとそ母いほ雪やと君と人々と

小野神社 神名帳曰小野神社二座 愛宕郡

敏行朝臣家

亭子院敏行朝臣の家の家小梅の花清澄

勝手社

大原乃野西乃麓あり神大和必吉野乃勝手明神之良忍上人

大原乃野至って上人乃弘法



西方院

上野村の中あり寂忍法師の般若尼の塔寺也小ありは尼ハ

真光寺

大長嶺村の小あり本尊釋迦佛行基の化坐像又尺計

賣炭公羽墓

勝林院村松樂院の後小ありは地ハ則小澤少して哥人乃

翁ありは所と具首長の墓ありん

拾玉 小野のふも大系ふも炭後の煙かきありあうらん

長鎮

住吉 炭はは氷室もあ小野ふも水と氷を隔りりたれ

後成

炭焼やね河乃乃流氷鼻をえんは

具角

小野氷室

延喜式曰山城國愛宕郡

その氷室ふのくく小野の毛のくく日傍都流鏡

千載 下をる氷室のふは流氷をさうる雪うらせりんは

源仲正

拾玉 小野のふの氷室ふは流氷をさうる雪うらせりんは

慈鎮

荳穂橋

大系橋井所の小ありは橋紀別高野ふ乃沖廟橋奥別松乃

形り土人曰毎茶一二人あり

來迎橋

荳穂橋乃小あり截石の橋ありて橋干銅の擬寶珠あり郷中の葬送

後鳥羽院陵

帝陵記曰北大原勝林院塔頭實光院小あり大系所ハ隈岐國

獅子石

融通寺堂の右小あり良忍上人の祠と建は

羅漢橋

融通寺堂の右小あり良忍上人の祠と建は

法然上人腰掛石

日所の西小あり傳云上人勝林院本尊小系指乃時を

姫祠

勝林院村往還の西小あり大津杜草生村北二町とりの

良暹山莊

大系小ありて袋州子小ありん

清輔代衣州子曰人々大系小遊行をあのく騎馬一々ふ後頼朝臣

感歎一皆下馬して行なぬ伴の良暹房乃の莊今ふ於てありと

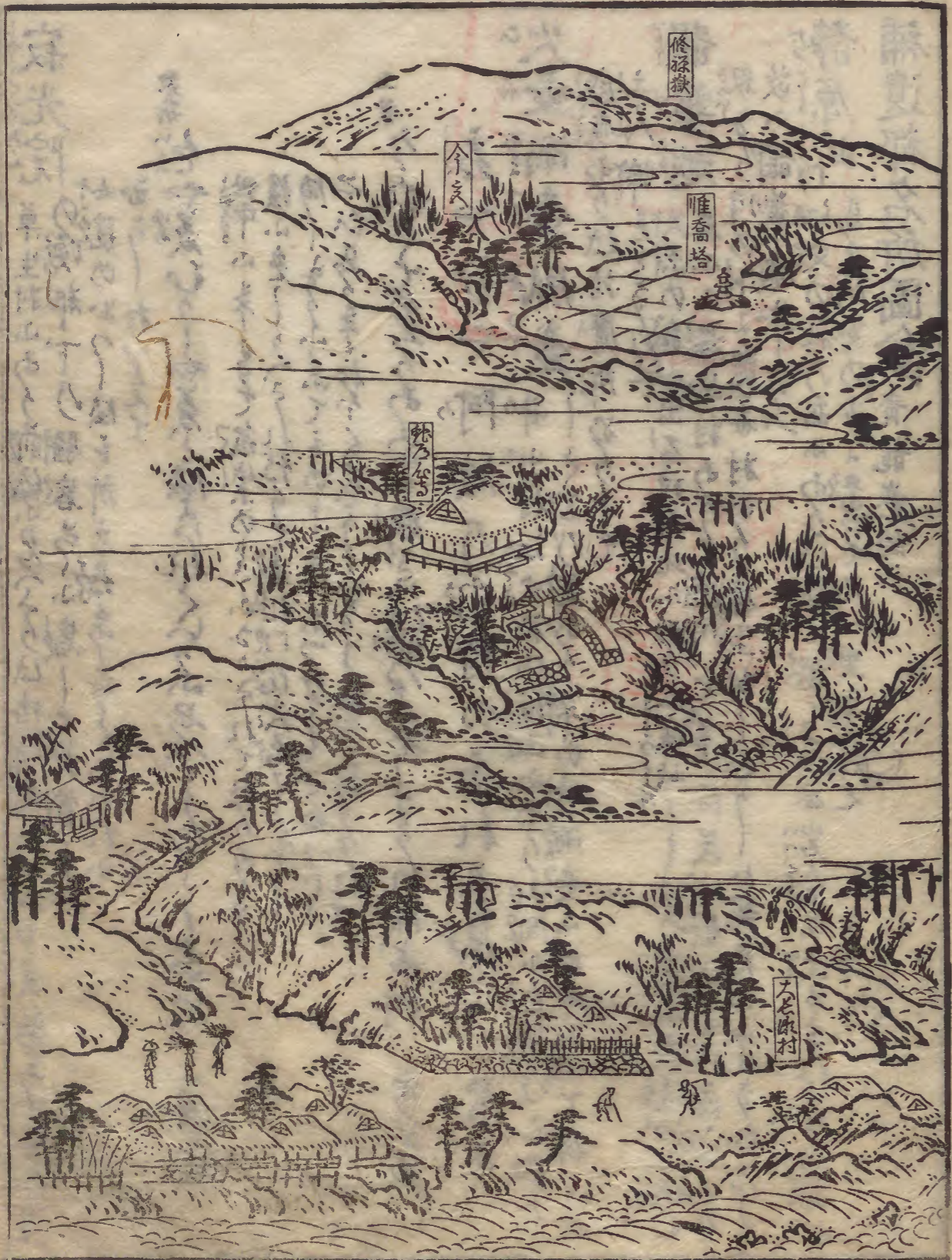
障ふ小書を哥いよと消とと

後登 山室の甲根ありあうるあうる初考さしてはは 良暹

け有後拾遺小有つて定頼卿の和歌小本同一を免つとら先小詠一

真守鉄盤石 居宅あり大原真守といふ名銀治とせん





大原郷口

後拾遺  
ありはめ七楼の  
とこやくき

大原ふ乃

雪の

柳



寂光院

草生村小あり前庭ありては地時鳥乃名を去海ありて卯月  
の影都下乃騒客ありて歡して笑賞を  
女院のありて海と并之尋糸をてくありて

家集

やまむいりやまを海にいくふもさうりくもあは

右京左美

世中小羊をて家集のなふあかされて作りたるが  
後小多しうれゆりて建礼院大系ありて  
海にきり小系をてその中きりふつててもさうりく  
さうりく羊おかくてさうりくやえりたるが

玉葉

くかくてあうりあふも遊をいはせたるさうりくは成る利

僧正全真

あやけ

阿は乃内侍のあれふ果

鷺水

火壺雨壺風壺

井出村江文社の後山あり山向小自然乃之窟あり  
蓋あり早の時雨壺小向ふて雨と禱あり

土人

感應ありけ地魔所ありて

龍華越

大系の奥小出石村乃北ありて城峠ともいふ足比敷比良嶽と乃  
其小は椽生村ありて溪川と名は足比敷比良嶽と乃

故龍

椽生村ありて

静原峠

江文の社乃西小ありけは越て長谷岩倉小至るをれり鞍馬に  
出成委の方より當て凡一里半計之

補遺都名所圖會

青龍卷終

消印



